

2016(仏暦2559)年春(4月)号(第98号)

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行
浄土真宗本願寺派
万行寺 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾461-1
電話 0267-67-2460



■住職法話

しん いちねん ぎょう いちねん
信の一念・行の一念

■～結ぶ絆から、広がるご縁へ～ ごえん

■本願寺の本

世界遺産 西本願寺の魅力

■お知らせ、編集後記

Photo

今年は、春先もわりと温かな日が続いたようで、あちこちで花が一気に咲いたようです。お寺の周辺にある桃の花も満開です。鮮やかなピンク色なので、青空にとっても映えています。

住職 法話

信の一念・行の一念

我が家の娘は、四歳、保育園の年中さんになりました。物事の判断が少し分かるようになって、生粋な面も出てきました。先日、食前のことばが無かったと逆に親が注意されてしまいました。しっかり子供に見られています。そんな面もありながら子育てに励んでいると、一つ感じたことがあります。それは、子供はまだ未熟ゆえに、言葉と行動が伴わないことが多いという事です。たとえば、玩具で夢中になって遊んでいて、私が「ご飯にします。手を洗ってきて下さい。」と言うと、「はい！」と元気な返事が返ってきます。しかし、

私が配膳を始めても、遊びに夢中で一向に動こうとしません。再度、顔を見ながら確認をしますが、まだやってくれません。とうとう私も堪忍袋の緒が切れてしまい娘とバトルが始まってしまいます。よくある光景ですが、どうしたものなのか、どなたか策がありましたら教えて欲しいです。...

この言葉と行動のように、二面性のある表現に関して、親鸞さまは『親鸞聖人御消息』というお手紙の中に次のようにお示し下さっています。

信の一念と行の一念とは言葉は二つであります、信を離れた行もありませ

んし、行の一念を離れた信の一念もありません。なぜなら、行というのは、本願に誓われている名号を一声称えて浄土に往生するということを聞いて、一声でも称え、あるいは十声でも称えることをいうのであり、この本願を聞いて、疑う心が少しもないことを信の一念というのです。ですから信と行とは二つではあります、名号を一声称えて往生すると聞いて疑う心がないので、行を離れた信はないどうかがつています。また、信を離れた行もないとお考えください。これらはみな阿弥陀

仏の誓いであるということ、心得なければなりません。行と信とは、本願のはたらきをいうのです。弥陀の本願を疑いなく信ずる心(信心)と、念仏を称える(称名)という浄土真宗の二つの要は、それぞれ離れた二つのものではないと言われている。念仏は私の行い(行)だから信心とは無関係ということではなく、私たちは阿弥陀仏からの念仏(行)によって救われ、それを少しも疑う心がなく聞き入れられたことを信心といわれます。

私は、娘の「はい」という少しも疑う心のない返事に救われているようです。



「結ぶ絆から、
広がるご縁へ」

うけえん

⑩わたしはあらゆる
ものにつながって
います。

「かけがえのない私」

「僕は誰からも必要とされて
いない。私なんていなくて
もいいんじゃないか……」

学校や職場で、こうした思
いを持つ方は、決して少なく
ないのではないのでしょうか。

最近では、厳しい就職活動の
中で、自分の存在そのものが
否定されたように感じ、自ら
いのちを絶つ学生がいること
も報道されています。「あな
たの代わりはいくらでもいる

」などのように、取り換え可
能な人間と言われることほ
ど、「生きる意味」を失う体
験はありません。まさに私た
ちは、「誰かにとって大切な
存在であること」によって、
はじめて「自分の大切さ」が
実感できるのです。

仏教には、「インドラの網」という有名なたとえがありま
す。インドラとは、古代イン
ドの神様であり、仏教では帝
釈天(たいしゃくてん)という名で知られてい
ます。その宮殿を飾ってい
る網(あみ)の結び目の一つには宝珠(ほうしゆ)
が結(むす)わえられており、それら
がちょうど合(あ)わせ鏡(かがみ)のように
互(たが)いに互(たが)いを映(うつ)し合(あ)い、どれ
か一つの宝珠(ほうしゆ)を取りあげれ
ば、そこにはその他すべての
宝珠(ほうしゆ)の姿(すがた)が映(うつ)し出(で)されてい
るというのです。

自分の顔は、鏡に映して見
ることができるよう、私自
身の姿についても、自分で気
付くより、他者の存在を通し
て知られるということがし
ばしばあります。同様に、他
者にとってもまた、他ならな
い私の存在(존在)が大きな意味を持
っています。このように、あ
らゆる存在(존在)が互(たが)いに関わり合
いながら形(かたち)づくられている究
極(きうごく)的な縁起(えんぎ)の世界(せかい)こそが、私
たちが生(な)きているこの世界(せかい)な
のです。今(いま)、生(な)きているこの
私(わたし)こそが、実は「すべての存
在(존在)にとって、無(な)くてはならな
い大切な私(わたし)」であることを、
仏教(ぶつこう)は伝(つた)えています。

「編集・発行／浄土真宗本願寺派総合研
究所、重点プロジェクト推進室」より

第25代専如門主 伝灯奉告法要

The Commemoration on the Accession of the Jodo Shinshu Tradition to the 25th Monshu Sennyō

法要期日

2016(平成28)年
第1期 10月1日(土)～ 8日(土)
第2期 10月20日(木)～ 27日(木)
第3期 11月4日(金)～ 11日(金)
第4期 11月18日(金)～ 25日(金)



2017(平成29)年
第5期 3月7日(火)～ 14日(火)
第6期 3月28日(火)～ 4月4日(火)
第7期 4月11日(火)～ 18日(火)
第8期 4月25日(火)～ 5月2日(火)
第9期 5月9日(火)～ 16日(火)
第10期 5月24日(水)～ 31日(水)

浄土真宗本願寺派 龍谷山 本願寺

TEL 075-371-5181(代) ホームページアドレス <http://www.hongwanji.or.jp>

～本願寺の本～

絵解きでわかる

世界遺産 西本願寺の魅力

山田雅夫 著

本願寺出版社 刊 1,944円(税込)

御影堂・阿弥陀堂・飛雲閣など、西本願寺の国宝・重要文化財の魅力を、都市工学の専門家であり、速描スケッチの第一人者でもある著者が、絵解きならではの抜群のわかりやすさで解説する。(本願寺出版社HPより)

本願寺への参拝に是非ご活用下さい。



お知らせ

一昨年(2019年)の6月6日に、本願寺のご門主が、宗祖・親鸞さまから数えて第25代の法統を継承されました。そこで、法灯を伝承、受け継がれたことを、仏祖の御前に告げる法要(伝灯奉告法要)が、今年の10月1日(土)から10期80日間かけて、来年の5月31日(水)まで勤められます。

法要にあたって、「うけつぐ伝灯 伝えるよろこび」というスローガンと右のロゴマークが出来ました。

団体および個人での一般参拝申込を受け付けています。今回は、万行寺で団体参拝の計画はありませんが、参拝に関する事は本願寺のホームページでお知らせしています。



編集後記

「ごえん」の連載は十回をもって終わりになりますが、次号には「ごえん」に関するまとめをしたいと思えます。◆ご門主の継承「伝灯奉告法要」に関するお知らせをしましたが、受け継いでいくことの大切さをあらためて感じる出来事です。また、少子高齢化など社会事情を反映して受け継ぐことが難しくなっている時代でもあります。単に家督を継ぐなど物質的な継承ではない、先人の思いを引き継いでいくことの大切さを、今後のご話の内容にも反映できたらと思います。

